

温古知新② 南総里見八犬伝 3 1

笑顔礼讃西東

富士短歌会 (山梨県・富士吉田市) 2 3

中田妙子様 (東京都・小平市) 4

祝・10周年 特別企画 ② 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(あなたにとつての記念日は?) 11 13

新潟ぶらり / 新潟市立亀田図書館 特別コレクション室 13

お客様の「リレーエッセイ」 河野静子様 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人 山田航様 16

6

June Vol.68

* 「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

高 詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇 ニュース

夜 楽

温古知新②

「南総里見八犬伝」3

八犬士のうち、信乃・莊介・道節が登場した前回。また、新たな八犬士が登場します。今回は…。

下総国許我の足利成氏の城を訪れた信乃。成氏との謁見にのぞんだ信乃は、村雨丸が偽物であったことから、敵の間者であると疑われ、追い詰められます。

血路を切り開いて逃げた先は、関東一の大河利根川に臨む「芳流閣」という楼閣の屋上。そこで犬飼見八が召しだされました。信乃と見八の戦いは互角。決着がつかないまま信乃の刀が折れ、両者は組み合い、そのまま利根川へ転落してしまいます。

その後、河口の行徳へ流れ着いた二人。旅籠・古那屋の主人・文吾兵衛に助けられます。信乃と見八は互いに痣と珠を見つけ因縁の関係であることを知り、文吾兵衛は息子の小文吾にも同様の痣と珠があると語りました(見八は「信」、小文吾は「悌」の珠)。

その頃、ついに追手は行徳にまでやってきました。古那屋にそれらしい武士がかくまわれているのを知った追手。文吾兵衛を捕らえ、小文吾に「信乃の首とひきかえに釈放する」と告げたの

でした。

その夜、市川の船主・犬江屋に嫁いだ小文吾の妹が、離縁を言い渡され、赤ん坊を連れて古那屋に帰ってきました。そこへやってきた妹の婿、犬江屋の房八。何だかんだと難癖をつけて小文吾と喧嘩に及び、逆に斬られてしまいました。しかし、それは、信乃の手配書に似ていた房八が身代わりになろうとして仕組んだことでした。そして、彼の子真平は生まれてからずっと開かなかつた左手を開きます。そこには「仁」の文字が浮きでた珠が。

ちょうど古那屋に宿泊していた、大法師は、里見家と伏姫の因縁を明らかにします。そして犬士に加わった真平に、犬江親兵衛という名を与えました。

追手を逃れた信乃は故郷大塚にもう一人の犬士がいることを告げ、現八と改名した見八、小文吾の三人で大塚へ向けて旅立ったのです。

一方、房八の行方不明を不審に思った市川の悪党たちの手から逃れるため安房に向かった犬江屋の一行は、悪党に待ち伏せされて親兵衛を奪われてしまいます。その時、雷が悪党を襲い、親兵衛は天に消えてしまったのです。

旅立った信乃の許へ集まり始めた犬士たち。そんな中、消えてしまった親兵衛の行方は!? 気になる次回、あの人が再登場です。

(古川久美子)

富士短歌会

主宰 川崎勝信様

(山梨県・富士吉田市)

前日の雪模様から一変、快晴の4月21日(日)、富士急ハイランドリゾートホテルにおいて行われた、富士短歌会による渡邊美枝子歌集『春は歩まむ』を語る会、及び研修会にお邪魔しました。



▲入口に掲示されたお祝いの手紙や寄せ書き

喜寿の記念にと、当社でお伝いをした歌集『春は歩まむ』の作者、渡邊美枝子さまは素敵な着物姿でご登場。「気軽に追加いただいた良かった」という趣旨で、出版記念会ではなく、このような形式に。主宰が「どんどん上手になっていく」と舌を巻くほど、会員の手による設営・運営は、温かななかにもしつかりと手はずが整えられていて驚く。金屏風を前に会員の石尾曠師朗さま、



▲『歌集 春は歩まむ』

表紙の桜の絵はお孫さん渡邊陽那乃さん(小5)の手による



▲お礼の言葉を述べる渡邊美枝子さま

清水英雄さま、そして僭越ながら不肖木戸も祝辞を述べさせていただきます、会員が一人ずつお祝いの言葉と『春は歩まむ』から自選した歌の感想を述べていく。

60歳の時に心臓にペースメーカーを埋め込んだ一級障害者とは思えない、芯のある明るさとたくましさで皆さんに親しまれる美枝子さまは憧れの存在。ご本人は「平凡な主婦が平凡な日常を詠った歌集」と謙遜されるが、随所に夫、子ども、七人の孫たちへの細やかなまなざしが感じられ、命の営みを丁寧詠っている。

歌集『春は歩まむ』より

「幸せは疲れるなあ」幼子と海を上がりて夫の七十路
初売りに買ひたる夫の登山靴春は歩まむ花咲く信濃

「母さんは幸せさうか」問ひしとふ向き合ふときは素つ気なき子の痛みより離れたる身の手術台上うつらうつらと聴ける「イマジン」
雉啼く朝の目覚め吾にあれ器機埋むる胸指にまさる
古里の風は涼しや娘と孫の同じ形の万歳に寝る



▲お祝いの膳
3時にはコーヒーとケーキも!

昼食をはさんで、午後からは研修会。提出した歌を、あらかじめ決められた担当者が批評し、その

後、川崎主宰の講評へと続く。

川崎：批評は与えられた歌がどんな心で詠まれているかを、まず把握して披瀝してほしい。その上で、表現的な内容の吟味に入る。作品は自分の手を離れたら、たとえ意図と違って受け取られようと仕方がない。極力、作者の言葉を尊重するが、私のアドバイスが絶対ではない。作者は自分の作品に責任を持つことが大切。
と33首の一つ一つを時間をかけて丹念にみていく。

春めく日死刑執行四名の「なまへ」よどまずラジオが伝ふ

温かくなつた日に、死刑執行された人の名前をアナウンサーがすらすらと伝えたという、日常のひとつを詠んでいる。穏やかな日に重い出来事というギャップ。なまへに「」をつけたのはなぜ?

川崎：「よどまず」が鍵。死刑執行などと聞くと心が不安になるが、ためらうことなく伝えるアナウンサーに、作者は違和感を感じている。名前は人間が親から与えられた自分だけのもの。「名前とは何ぞや?」と、名前にもっと重い意味を持たせたくて「」をつけたの



▲市の文化功労者として表彰を受けている主宰の川崎勝信さま

だと思ふ。特別なことは言っていないが、いろんなことを想像させてくれる歌。社会詠もこう詠みたい。ラジオは映像が伴わない分、想像を広げられてまたいい。

祖父の飼ひし綿羊毛を紡ぎ母の編みしセーターふはふは

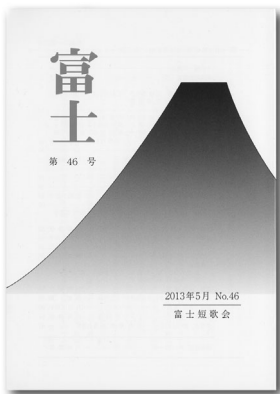
今セーターを着ているのか、追憶の中の歌なのか、読み取れず困った歌。
川崎：結句の「セーターふはふは」が現在で、あとは過去の回想だが長すぎる。飼ひし、紡ぎ、編みぬし、の動詞の何れかを省略しないと現在を描くスペースがなくなる。祖父の綿羊毛に母編みしとすれば、動詞を省略できる。いつも言うが、初句と2句が導入で、3句以下で歌の中心を詠い、5句(結句)が一番大切でしっかりと自分の気持ちるを伝えられる部分。

がらくたを積むごとく生き春の日を開きなほりて化粧などなす

解釈ができない気持ちがたくさんあるのだから、言葉通りにしかとれなかった。

川崎：がらくたとは、値打ちのない雑多な品物のこと。「積む」は不要だし、

笑顔礼讃西東



▲隔月刊の「富士」第46号

「開きなほりて」は絶対とらないと。自分の気持ちを全部種明かししている。想像させることで歌が深くなる。化粧は「けはひ」と読ませた方が柔らかくていい。春の日に化粧をする女性の心が、様子を伝えることで生きてくる。

やはらかき日差し畑に満つ耕運機春初
の音と土の香乗せて

待望の春、農作業の喜びを詠っている歌。五感がいくつも入っている。ただ、4句目と5句目で少しつかえたので、音調を整えられたらいいかと。

川崎：おっしゃる通りで、五感で捉えて効果的。あとは調べを整えればいい。やはり日の畑に初の音たつる耕運機は春の土の香を乗せ

やわらかく、ゆつたりと、こういう歌を詠いたい。

末つ子の最後の弁当受験の日亡母の好
みし苺を三つ

これが最後の弁当、という大切な日。自分の母親がしてくれたように、親の思いが受け継がれ、命が継承されていく。私もよくやるのが「の」の多用、これはいかがでしょうか。

川崎：3句目の「受験の日」が説明的。

「三つ」の数詞は不要。受験する末子の弁当最後とぞ母の好みし苺も入れぬとすれば「の」が2つとれる。

寄り添ひて眠るが見ゆる山鳩のいち
の枝に雪降る日暮

冬は動物も人間も、寄り添って生きる大切な季節。そこへ雪が降っている。川崎：いい歌。「眠るが見ゆる」は山鳩ではなく、いちろの枝にかけたい。「雪降る日暮」も説明的。「ゆふべ雪降る」とした方が、限りなく雪が降っているよ、という感じになる。

寄り添ひて山鳩眠るが見ゆるいちろの枝にゆふべ雪降る

説明的だと、意味は伝わるが、心が伝わらない。歌は意味を伝えるものではなく、その時の自分の情、心を伝えるもの。

子育ては成功したねと娘の真顔親を頼
らず生きてゐるらし

母に対して娘が言った言葉。親を頼らずに一人前に生きていくという、うれしい気持ちを感じている。うらやましい。

川崎：「親を」だとよそよそしい。「我ら」でいい。我らだと作者が入るが、親をとというやや作者から離れる。

*

川崎：一昨年に亡くなった師匠の千代國一は、短歌は「単純で、さりげなく、具体的に描く」と言っている。いろんなものは入れず、一瞬の感動を詠う。経過や期間をいえば、散文にはかなわない。ただ、一瞬を切り取ると、歌へ散

文に勝る想像力を与える。そして、うれしい、悲しいという気持ちは決して強調しない。ぐっと抑えることで、より相手に伝わる。

そのときのその人だけの感動を訴え、共感してほしいから詠んでいるわけで、理屈や説明、観念で作らないこと。ただ、具体的な表現を盛り込まない限り、読者の想像力を喚起し、心に訴えることはできない。そのためには、具体的に描くこと。

先ほどの歌にもあったが、五感プラスそれ以上にほしいのは第六感。一瞬のひらめき、心の目、心眼で物事をつかまえられると、もっといい歌になる。

いろいろと言ってきたが、「富士短歌会」の歌は草の根短歌だと思っている。名もない庶民だが、自分の言葉と個性で優しく素朴に表現し、一生懸命に詠う。そして「富士」の誌上にはつとつと発表を続けること。みんながいいものを持っている。自信を持って「あるがままを、ありのままに表現する」を合言葉に頑張ってください。

★午前10時から16時までのほぼ丸一日。一つひとつの歌を吟味し、短歌にどうふりとかかる贅沢な時間。資料もしっかりと準備され、身一つ、ここにただだけで少し賢くなったような錯覚をするほどの充実した内容。熱心な指導者と呼ぶる会員のつくりあげる相乗効果で「富士」の如く高い頂をめざす。渡邊さまの「100歳までこの会に参加したい」とのお言葉。日々、富士を仰ぎ見ている皆さまなら、実現可能だと思えてくる。(木戸敦子)



▲7年目の「富士短歌会」の面々



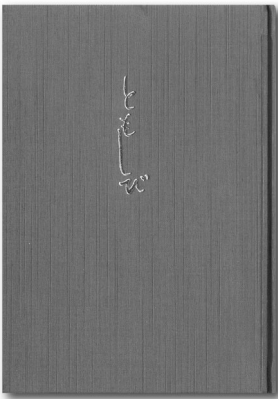
中田妙子様

(東京都・小平市)

3年前の平成23年6月『歌集 ともしび』を出版された中田妙子さま。それ以来のご縁で何かと弊社を気にかけ、スタッフ一人ひとりにお手紙やお菓子を送ってくださるなど、ご親切にしていただいています。先日、中田さまと教会のお仲間、そして弊社スタッフの計6人で鎌倉に行った際に、来し方をおうかがいしました。

◎短歌を始められたきっかけは？

昭和26年、千葉県夷隅郡（現在いすみ市）にあった千葉県立教員保養所で看護婦として働いていた際、入所者の方に短歌結社「青垣」を紹介されたことがきっかけです。当時からこの歌を折々に書き溜めていただけで、このまま捨てられるのかな、と思っていた矢先、ひよんなことから本としてまとめることに。4年前、入院した際にたまにたまご一緒した方が俳句をなさる方で、せっかくだから本にしなさいと、御社を薦めてくれました。思いもよらぬこ



▲『歌集 ともしび』
題字は中田さまの手による

とでしたが、思い切つて電話をし「原稿をお送りしていいですか」と聞くと「どうぞいいですよ」とのこと。退院して家に戻ると見本が届いていました。

◎大変な時代を生きてこられましたね

昭和19年3月に和歌山の赤十字病院を卒業すると、すぐに横須賀の海軍病院の湯河原仮病舎勤務、同年12月には熱海海軍病院に転属を命じられ、翌年の8月にその病院でポツダム宣言受諾の旨を聞きました。看護婦として面倒を見ていた負傷者が後の夫。彼は警備隊として八丈島に配属され、直撃弾の爆風に吹き飛ばされ背中を強打し、それがもとで肋骨カリエスに隣で作業をしていた友達は即死だったそうです。八丈島の、水がぼたぼた落ちてくるような穴の中において治療もできず、終戦後に数度にわたって手術をするも、骨が腐つていて肋骨を3本とりました。

◎深刻な病状だったのです

その後、私は南紀白浜国立温泉保養所に転勤。彼は千葉の実家で静養していましたが7年ほど文通を続け、お見舞いがたら訪ねました。当時、親戚に列車ボーイ（車掌補）がいて「東京に行きたいなら連れて行ってやるよ」と融通してくれたのです。どうやら、その



▲飲む方も現役！の中田妙子さま

列車ボーイは私と結婚したかったようですが（笑）。そして26歳で結婚。夫は働けず、軍人恩給もなく、向こうの両親は気の毒だといって随分可愛がつてくれました。

でも不思議と、私自身、働いているときはしんどいとは思わないのです。二個四※の時代、子ども二人を抱えて必死だったのでしょうか。

（※昭和20年代の半ば、失業対策事業に就労して職業安定所からもらう日給が240円だったところから、日雇労働者の俗称）

その後は、家も提供してくれるという川崎の聖マリアン東横病院に移り、そこで初めてカトリックに触れました。職員はみなキリスト教の勉強をするのです。実家は奈良のお寺なのにね（笑）。

でも、教務の先生の話がおもしろくなって、一年間、毎週田園調布にある聖フランシスコ修道院に通い神父様の話聞いていたうち、カトリックに捕えられたのです。その後、信仰と結びつき、国立療養所多摩全生園（ハンセン病療養所）に勤務。そこでの12年間で、言葉に尽くせないほどの経験と人間としての生き方について学ばせていただきました。とにかくカトリックに夢中で、ローマ、メキシコ、フランス、スペインと何度も巡礼に足を運びました。

◎なぜそんな一生懸命に？

神様の声を聞きたいのでしようね。ある神父様は「神様助けて！」と思うようなつらい時でも、祈る言葉はある。一言「私をあわれんでください」そう祈りなさいとおっしゃいました。一番辛かったのは、3年前に娘を脳腫瘍で失ったこと。ちょうど本を作っているときだったので、病床で「ばーば、本にな

るといいねえ」と喜んでくれ、最初「灯火」としていたタイトルも、「ともしび」の方が柔らかくていいよ、とアドバイスしてくれました。

◎これからは？

死にたいと思ったこともありましたが、私一人の命ではなく、神様がくださった命。いただいた分は、生きていかなければいけないと思えるようになりました。この歳になつても、まだまだわからないことばかり。今まで当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではない、たぶんそういうことなのだと思えます。

「歌集 ともしび」より

やりくりが下手なかしらと夫に
言ひ今月の赤字吾が手にて書く
置きて来し吾子想ひて甲府駅車
出づる時乳しほりたり
しんしんと吾が身に透る雪あかり
深夜勤務に今より行かむ
物見ゆるこのしあはせぞ盲ひたる
人の心を深く思へば
重症の夫とは悲し幸せで在りしと
つたふ君が手細く
戦争といふ名のもとに傷つきし四
十年をおもひ涙こぼるる

★7月で87歳になるといふ中田さま。

多くの喪失の果てに得た命への確信。「私って皆さんに助けられているの」と仰いますが、中田さまの生き様に助けられていく人がたくさんいます。当社も然り。「今日は今日の命。いただいた命を生きていく」とても小さくて、可愛らしい身体の中に宿した力にあやかりたい。
(木戸敦子)

喜怒哀楽書房が今年十月で十周年を迎えることを記念し、特集ページをスタート！第二回目も、引き続き木戸敦子へのインタビューです。



Musey
The 10th
anniversary

◎前回ご自身の手で納得のいく本を！という話がありました。

—とはいうものの、最初は誰も当社をご存知ないわけです。俳句や川柳、短歌の会の主宰に情報誌「喜怒哀楽」をお送りし、しばらくして電話をしてみました。何それ？誰？と、にべもなく電話を切られてしまうことが続き、胃の痛い毎日でした。当時、優しい言葉をかけていただいた方は、今でもよく覚えています(笑)。

◎そして少しづつ、お手伝いさせていただきますようになったのでしょうか？

—スタートしたばかりのときは、後発の会社ということもあり、「高いというイメージのある自費出版をパターン化することで、安い価格で提供しよう」と取り組みました。少しは反応をいただけたのですが、あるとき電話で「よう考えてみて、自分というものを表現したくて作品を作つとんのやで。そんな画一的なもの誰が作りおるか」と教えてくれた方がいらつしやいました。よくわかりもしないで、このような考え自体が失礼だったと気づきました。

◎ほかに、転機になったことはありますか？

—広島川柳会の会長さんでしたが、本を作る過程で何度電話をしても話の中ということが二日続き、おかしいと思った矢先、お弟子さんから家が全焼し亡くなられたと連絡をいただきました。原稿も一切焼失したなか、葬儀の日、当社が送った再校正の原稿がお寺に転送されたというのです。娘さんは「この再校正が天国からの宅配便

のように思えた」と、何よりも川柳を愛したお父様の想いを引き継ぎ、本は完成しました。お一人おひとりの生きた証であり、想いの詰まった作品を同じような本にしてはいけない、と思つた瞬間です。

◎原稿のときからお客様お一人おひとり違っていますものね

—タバコの匂いや樟脳の匂いのする原稿、チラシの裏に書かれた原稿、お子さんのノートに書かれた微笑ましいもの：様々な原稿をいただきます。原稿からタバコの匂いがしなくなつて、禁煙されたことを当てることもありました。几帳面にまとめられた原稿、自由奔放な原稿。その方の人となり、原稿ややりとりをする書類からうかがえます。何がよくて何が悪いかではなく、すべてがその方の生きてこられた集積であり、その方そのものであり、尊重したいと思うのです。中には居住まいを正しくなるような原稿もいただきました。

◎それはどのような？

—俳句すべてを短冊にきれいにしたためた原稿(書)。その数約一五〇〇句。あつ、これは入社した当初、菅さんがひたすらコピーを繰り返していた原稿だね(笑)

戦争体験を綴つた、何度も書き直し、切つたり貼つたりの悪戦苦闘の跡が見られる圧倒的な量の原稿。炭釜の街に生まれ育ち、季節感のない真つ暗な坑内でも、俳句をすることで違う世界が見えたと記す原稿。中でも印象に残っているのは、二十三歳で召集、終戦で旧ソ連領内の捕虜収容所で三年半を送

られたという八十五歳の方の句集のあとがきです。

脚を引きずりながらの強制労働、毎日死者の続出、収容所へ帰つて窓から見る月がボタ餅に見えた。一つでもいい、食べてから死にたいと思つたことは後を絶たない。

満月が餅に見えたる収容所
(一部抜粋)

この方は、俳句をする時間だけでも空腹を忘れることができる、と毎日寝る前に仲間数十人で俳句を作つたといひます。帰還命令の船で三年ぶりに見た白飯にみんな泣いたという話、裸同然の引揚げで何もかも(当然、俳句などの書いたものも)持ち帰ることはできなかつたという話など、私には知らないことの連続で衝撃的でした。「踏みじられた青春をとりもどすべく」生きるために必死の日々を過ごされてきた、そんなあるとき、「生きていたため俳句をやれ」とある俳人の方に薦められ、俳句を支えに、今まで生きてこられたということが書いてあり、自分の想像を超えていました。

私たちには想像もつかないような現実と、一つの作品にこめられた想い。本という形にすればそれでいい、というのではないと感じます。

他にも、亡くなられた奥様の着物を本の表紙に使つた方、一冊だけでいいと、本当に一冊だけ作られた方——皆さんそれぞれの深い想いをお持ちなのだ、お手伝いをさせていただいて感じています。

(インタビュー：菅真理子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり2013年7月12日まで
※作品は原稿どおりに掲載しております。

短歌

- 1 政権がどう変わろうとかわりなし棄民のようないまの福島
黒澤正行(福島県)
- 2 千の風吹きて散りゆく斎場の櫻は手向けぞ召されし人の
清水英雄(東京都)
- 3 藍色に桜吹雪の花衣まといし我にかかると花びら
加藤かよ(新潟県)
- 4 程のよきあたたかさある小海線二人居ねむり二人本読む
佐々木都(長野県)
- 5 満開の桜並木の彼方には雪の妙高雄姿まばゆく
山本敏順(長野県)
- 6 役所での個人確認尋ねられ干支は「蟹」ですとあだ名答へり
音喜多千津子(埼玉県)
- 7 桃のジャム帽子被せて商うに土産にくれし君の人柄
土屋喜雄(山梨県)
- 8 最愛の教へ子長らく生き続け我の最期を見届け給へ
今井忠一(東京都)
- 9 少女趣味と嘲笑されつつこの宵も古布を接ぎ合はせ吊るし雛作りぬ
木暮珣子(群馬県)

- 10 梅を見にたのむと待ちしが季の過ぎて桜満開嫁も娘も来ず
高須孝(愛知県)
- 11 紫陽花のしっとり涙い袖寄せて憂ひもひそめ佳き交う笑笑笑
濱田花香(新潟県)
- 12 わたしのはつ恋は金曾木小学校三年生のときの給食のときだったわ
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 13 思い出は記憶している空港に楽し音楽うれしいたより
五味田幸夫(神奈川県)
- 14 南国の龍馬マラソン桂浜黒潮眺めて
ゴールは春野
新井賢(埼玉県)
- 15 新潟の未来を拓くメディア基地北前船のごとき日報
大竹憲弥(新潟県)
- 16 夫逝きしかの病棟よここに来て訪ねてみたい湧きくる衝動
高橋邦子(高知県)
- 17 「願はくは花の下にて」西行が詠みたる櫻駆足に過ぐ
黍嶋金平(愛知県)
- 18 白たんぽぽぼぼになりたるまりも玉無風の空に無数消えゆく
栗原黎(群馬県)
- 19 花の色高田公園人の満ち溜息ついて本望だろう
五十嵐睦博(新潟県)
- 20 花乏し春にはいまだ遠くして佐助の花風に揺れをり
小暮昭司(群馬県)
- 21 人なれば後に遺せし詩を成さん寡黙の日日を悔しけるかな
神野弘(岡山県)
- 22 赤いバイク置いて傘干す倉裡うらに柿若葉照る
久保和友(滋賀県)
- 23 きらきらと陽は射しさわわ風風ぎてゆるゆる森は自然の笑みへ
松山知恵子(宮崎県)
- 24 蛍生息地また狭められ葦原の続く河床に重機の動く
桑原謙一(群馬県)

- 25 地位が人を作るのか人が地位を作るのか疑問だ
北岡晃(兵庫県)
- 26 夕月に舞ひ立ち出でよ白拍子梨の花今盛りなりけり
今井温子(奈良県)
- 27 物言えぬ君の遺影に追悼の真意の叫び鳴咽誘えぬ
田中豊恵(新潟県)
- 28 ひこばえの二尺ばかりに芽をつけし大銀杏の根は甦りつ、
石尾曠師朗(東京都)
- 29 先学の書読む君よペンを折るあと十年の時は神様
早坂紘司(北海道)
- 30 安倍晴明寺に舞ひ立つ蝶なればどこか妖しく式神かと思ふ
佐伯はる(奈良県)
- 31 われ独りホームのベッドに臥す夜々は先に逝きにし夫を恋ほしむ
萬濃その子(神奈川県)
- 32 幸せを呼ぶと言われたクローバー四ツ葉見つけて騒がしあの頃
吉野成行(愛知県)
- 33 花びらが舞い散る広き公園に若き母「コラコラ」と子を追ふ
濱崎祥子(鹿児島県)
- 34 疲れたと傘寿の夫はよく動く我れ古希迎え五十年の祝い
田中迪子(東京都)
- 35 近頃は文字や言葉も忘れきて喜怒哀楽は辞書を引きつ、
安達一葉(北海道)
- 36 晩秋の叔父送葬の日の事も遙けくなりて叔母は白寿に
塩澤倫子(神奈川県)
- 37 招かれて新宿御苑や観桜会花の雲に包まれる大臣らと共に
佐野澄江(山梨県)
- 38 散歩にて青い若葉の木々の中白い花咲くナンジャモンジャや
浅沼正子(神奈川県)

- 39 湯豆腐の湯気で眼鏡が直ぐくもる嬉は豆腐中中掴めず
岩崎政弘(岡山県)
- 40 流されてこわれた墓石を海に向け再建したいと友の便りは
寒川靖子(香川県)
- 41 腰痛に負けて甘えて三月の日記は白く喜寿を迎えて
森ふく(千葉県)
- 42 この我に勿体なきよな師がふたり歩みあやふき世の道しるべ
小笠原紗恵子(神奈川県)
- 43 桜咲く春を願ひて就活の孫へのごとばあれこれ選ぶ
梁瀬龍夫(山形県)
- 44 ずいぶんとあなたの知らない歳月を重ねて今年の花が散ります
山内寿子(京都府)
- 45 被災跡草花植える老と孫
佐竹章(宮城県)
- 46 ガソリンの値段血圧ほどに揺れ
丸山芳夫(東京都)
- 47 露のとうひと味ちがう苦さかな
工藤昌見(山形県)
- 48 しがらみを断つてまぶしい空仰ぐ
山口千鶴子(東京都)
- 49 いくわよと婦唱夫随の瀧登り
三宅得三(新潟県)
- 50 無精ヒゲちくり休みの朝の恋
石神紅雀(鹿児島県)
- 51 コーヒー紅茶妻と二人の軽い昼
田澤宏(新潟県)
- 52 孫一人又もう一人巣立ちゆく
大江秋月(兵庫県)
- 53 大皿に家族の笑顔でんご盛り
諸橋文男(新潟県)
- 54 焦つても無理は出来ない歳となる
守屋高雄(岩手県)

川柳

- 55 どうせならきれいに咲いて狂い咲き
細川光子(栃木県)
- 56 名をつけて胸から歩く一年生
北村純一(神奈川県)
- 57 今日だけは善人となる祝い席
潮田春雄(千葉県)
- 58 軽い嘘風にまかせ匙加減
金子育司(埼玉県)
- 59 てのひらのまめが自分史物語る
久本にい地(岡山県)
- 60 日が昇るボンと手叩き押んでる
松田義登(福岡県)
- 61 春日和緑の風に誘われる
近藤はつみ(福岡県)
- 62 得心が行かず時計が二つ鳴る
竹村穂夫(大阪府)
- 63 天神へ内緒で書いた母の絵馬
石原岳(群馬県)
- 64 カルテよりパソコン見てるお医者さん
原田英一(千葉県)
- 65 殿様の気分に入る城散歩
奥田音野(香川県)
- 66 きつと咲く約束のある花の種
竹森桂子(香川県)
- 67 山谷越えし女の一生モーパッサン
南喜美子(千葉県)
- 68 元気だせ痛さかゆさも吹き飛ばせ
大橋絵代(千葉県)
- 69 悔しさを鎮める酒でまた愚痴る
藤沢健二(千葉県)
- 70 ハンドルへ助手席の妻指令出す
楠瀬美香(高知県)
- 71 まっ先に場所とり志願新入社
藤井碩子(山口県)
- 72 ボランティア歌える自分に感謝する
菊地可寿子(新潟県)
- 73 体力に勝つシルバーの心意気
岡本恵(茨城県)

- 74 恩師の名ニックネームで今も呼び
青木日出男(群馬県)
- 75 新島襄作「寒梅」に鼓舞される
安田翔光(香川県)
- 76 言わずとも以心伝心だった妻
藤井北灯(福岡県)
- 77 田植え始まり日本が様になる
小山恵美子(大阪府)
- 78 冷蔵庫開けたら要るもの何だっけ?
岡弘子(埼玉県)
- 79 志士の墓涙が先に昏れ残る
羽田桐柳(群馬県)
- 80 孫ら来て笑いに満つる連休日
鈴木義雄(福島県)
- 81 母は子を息子は母を思う絵馬
大岩歌子(岡山県)
- 82 鯉のぼりがそろそろ疼きだしている
高柳閑雲(愛知県)
- 83 戦争を語り部として六十七
藤田三四郎(群馬県)
- 84 検査の度ふえる薬を飲み忘れ
奥那於子(大阪府)
- 85 甘えては上げ下げ頼む背のチャック
山崎一嘉(愛媛県)
- 86 どうですか人より先の天国は
夏井誠治(新潟県)
- 87 あとひとりいてほしい席語る酒
松尾健二(千葉県)
- 88 十二支をもうひと巡り夫婦旅
近藤富夫(東京都)
- 89 白鳥にリーダー学べ政治家よ
三浦博(岩手県)
- 90 ローギアに変えて白寿の坂目指す
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 91 給料日やさしい妻に戻ります
中林恵子(大阪府)
- 92 拓墨を作るよぎを摘み出る
奈倉楽甫(愛知県)

- 93 何時の日も叱ってくれる妻が居る
野田明夢(新潟県)
- 94 たこ焼をつつき合える仲直り
鈴木岑夫(千葉県)
- 95 安売りを駄目と言う殿様政治
原崇雄(埼玉県)
- 俳句**
- 96 三月やほぐされてゆく肩の凝り
松嶋光秋(東京都)
- 97 下の名で呼ばふ邂逅仏生会
星野三興(新潟県)
- 98 はしなくも秘仏を拝す日永かな
環順子(東京都)
- 99 夜桜に妖しさもあり京の街
井原毬子(東京都)
- 100 薫風やあ愉快なり早慶戦
阿部至(埼玉県)
- 101 喜怒哀楽丸めて筒へ卒業す
橋本世紀男(東京都)
- 102 朧月さそつてみたき人のあり
松涛千鶴子(東京都)
- 103 閑居とてひかり遍し柿若葉
大谷茂(埼玉県)
- 104 ピノキオが駆け抜けてゆく花吹雪
松田重信(埼玉県)
- 105 春疾風押され土曜の音楽会
竹本美美子(新潟県)
- 106 梅実る実篤邸の昼下り
関原幸子(東京都)
- 107 嬰背負い里に帰るや白木蓮
松尾らん(東京都)
- 108 ゆつくりと過ぐる時間や花菜畑
高崎登喜子(東京都)
- 109 かぶと虫いまだに見せぬ笑顔かな
小松政雄(長野県)
- 110 聴きはさみ歩き遅らす雛の唄
千代田俳徒(東京都)

- 111 稚児の列飽かず眺むる花祭り
山崎ゆき(東京都)
- 112 さんさ時雨唄いて今日の初桜
副島加代子(宮城県)
- 113 春燈や五島うどんに黒焼酎
矢野絹枝(東京都)
- 114 遊ぶ子の風と戯る雪柳
野村牟人(東京都)
- 115 晴れの日をまてばいつきに花は葉に
小形さだ(東京都)
- 116 膝小僧並べて仰ぐ春の空
古谷力(東京都)
- 117 ささめ雪震災の地とわが路と
安部哲(新潟県)
- 118 行く春や己が影踏む昼さがり
長野操(埼玉県)
- 119 溪谷の路の姑摘みにけり
大場きよし(宮城県)
- 120 瓔珞の花鳥輝く古雛
平山千江(岩手県)
- 121 公園をめぐりて胸しむ花吹雪
福原喜恵子(群馬県)
- 122 日溜りはしあわせだまり仔猫生る
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 123 青き海より生まれたる桜貝
関根千恵(埼玉県)
- 124 声までも緑に染まる木の芽時
吉村充治(埼玉県)
- 125 西行に乗せてやりたき花筏
篠原三郎(静岡県)
- 126 春祭り福引き当てし笑顔かな
山田幸代(兵庫県)
- 127 鳴り止まぬ記念の時計春あけほの
早乙女文子(埼玉県)
- 128 春耕や等間隔の靴の跡
布目雅之(東京都)
- 129 華やかにトリを飾りし八重桜
西條公雄(埼玉県)

投稿作品



- 130 かつこうと啼く信号や春の色
佐野和彦(静岡県)
- 131 葉桜に透きて五重の塔映ゆる
堅田秀子(東京都)
- 132 それぞれに生きる様あり花こふし
大内泰子(東京都)
- 133 節句にはまだまだあるにこいのほり
会田とし子(神奈川県)
- 134 遠山は淡き墨絵や里若葉
檜山とり子(東京都)
- 135 春かすみ岳の稜線みえかくれ
須澤重雄(長野県)
- 136 幼児のチンチン程上路の臺
有田裕子(北海道)
- 137 春一番四阿ぬけて海に出る
菊池シユン(青森県)
- 138 霽消えて今を万朶の八重桜
渡邊碧海(静岡県)
- 139 飛鳥路のガイドのさまに葱坊主
西川孝子(奈良県)
- 140 木蓮の花雨に咲き風に咲き
北村富士雄(新潟県)
- 141 新緑へうねる鉄路の溶け込めり
二瓶邦枝(埼玉県)
- 142 花吹雪碑銘は日露戦歿者
津田忠彦(岡山県)
- 143 裏庭の赤松の幹春深し
川崎貴行(熊本県)
- 144 熊除けの鈴持つ児童新学期
杉村美保子(岩手県)
- 145 荒れにける逢瀬の浜や鳥の恋
井上静夫(栃木県)
- 146 郭公の声を遠くに始発バス
高松ゆか(神奈川県)
- 147 書初めに和を輪と描く心境
加用章勝(千葉県)
- 148 転動だ「と金」が躍る蜃気楼
忍正志(兵庫県)
- 149 夏めくやクールカラーの白光る
吉田律子(新潟県)
- 150 鳥帰るコンクラベといふ儀式
湯浅芳郎(岡山県)
- 151 春寒し首に重たき喪の真珠
紺谷睡花(東京都)
- 152 我もまた四月の希望ありしかな
安木沢修風(新潟県)
- 153 蔵書本手に通勤者花も実
居原田連星(大阪府)
- 154 父の無き孫遊ばす春風裡
津田吾燈人(高知県)
- 155 転世の岳父なるらむ揚羽蝶
川崎洋吉(福岡県)
- 156 樟若葉門出の背広よく似合ふ
山本直子(大阪府)
- 157 グリラの子抱かれふらこ天揺れす
武市愛子(大阪府)
- 158 隣から届く草餅朝の地震
炭崎博(滋賀県)
- 159 丸き顔丸刈坊主更衣
早矢仕邦夫(愛知県)
- 160 白木蓮ねむれる墓の闇灯す
清まさじ(静岡県)
- 161 そよ風に蝶の行方を訪ねけり
小澤円梨(静岡県)
- 162 赤白黄バス停で待つチューリップ
神作洗江(埼玉県)
- 163 一湾を望む老舗のしらす丼
寺内侖(埼玉県)
- 164 葉桜や応援団の猛稽古
佐瀬千恵(神奈川県)
- 165 青春やいけません駄目でも好きよ
山東爺(北海道)
- 166 麗かや三文判が出てきたぞ
小島岳青(新潟県)
- 167 「若いね」と言はれて脱げぬ帽子
田中美智子(埼玉県)
- 168 「ただいま」の声の膨らむ合格子
長峰正晴(千葉県)
- 169 産声を待つ間の長き春の宵
中嶋清子(佐賀県)
- 170 憂楽をのみ込む里の花杏
三津木俊幸(千葉県)
- 171 余生なおなすこと多し杜鵑花かな
内河邦久(東京都)
- 172 潮干狩己の影を掘つてをり
川口襄(埼玉県)
- 173 犬は居ず猛犬札といぬふぐり
井田由利子(宮城県)
- 174 春オリオン低く静かにレクイエム
林 克(福島県)
- 175 春曙や抱いて寝ていた猫あわて
延原令岱(岡山県)
- 176 見るものの皆生々と五月かな
山本善輔(兵庫県)
- 177 日帰り温泉楽しむサロン薄暑かな
大橋恒次(新潟県)
- 178 春眠や百の古墳が口あけて
野木宗信(奈良県)
- 179 舞い散る花はサヨナラのモノローグ
仁藤ひろし(埼玉県)
- 180 一人住む孤独と気楽紫木蓮
岡村君枝(茨城県)
- 181 房総の海かがやけり松の芯
福山三智子(東京都)
- 182 薫風に揺られ夢見る米寿旅
凶子利明(兵庫県)
- 183 陵の空へ総立つ松の芯
澤雅子(大阪府)
- 184 花明り子は口癖のあそぼうよ
大西誠一(岐阜県)
- 185 母よりも生きて早桃のこと思ふ
橋本志げ子(兵庫県)
- 186 一片といへど西行の桜かな
藤田廣子(京都府)
- 187 調教の馬を見ている夏帽子
山崎吉晴(群馬県)
- 188 人生も今が盛りと花吹雪
近藤薫也(千葉県)
- 189 朝掘りの竹の子濡らす玉霽
山本勝美(滋賀県)
- 190 ご放念ねがふ一筆半夏生
阿部徳夫(宮城県)
- 191 味噌汁の葱の香りや梅雨の朝
青木ケン子(埼玉県)
- 192 十年の節目を祝う御来光
稲垣恵子(埼玉県)
- 193 一隅に一人静のひそやかに
道給一恵(埼玉県)
- 194 蒼穹の深き吐息や春疾風
片山茂子(埼玉県)
- 195 憲法記念日に改悪反対
福岡悟(東京都)
- 196 格式を誇る旧家の君子蘭
山本吉夫(三重県)
- 197 行く春やリズム正し蕎麦を打つ
中西秀雄(東京都)
- 198 だしぬけに夜明けを告ぐる恋の猫
坪田勝秀(鹿児島県)
- 199 白牡丹父に手向けし妣徳ぶ
堀田寿美子(北海道)
- 200 おさがりのジーンズフィット更衣
土谷敏雄(秋田県)
- 201 薯植うる嫁つ子鉄にあそはれり
小野寺裕子(宮城県)
- 202 栗林の和舟優雅に日傘かな
佐伯セツ子(香川県)
- 203 草萌や一人歌は又一人
岩永登茂子(大阪府)
- 204 流し雛渦をとらえて漕ぎ出せり
田中昶(鳥取県)
- 205 春愁や売れぬ仔犬の横座り
羽根田明(神奈川県)

- 206 葉桜の木影の広し子等の声
杉原明子(静岡県)
- 207 禅の寺高野檜あり多佳子の忌
宇田川正雄(埼玉県)
- 208 散る桜何おもふとやわが頭上
阿部澄江(宮城県)
- 209 春眠しいつも人後に居て達者
今井勝子(新潟県)
- 210 飛ぶような余生短き四月なり
水落重武(新潟県)
- 211 青麦やかかあ天下の風強し
堀井酔人(茨城県)
- 212 献血の話の続く日向ぼこ
鈴木蝶次(宮城県)
- 213 花桃を植えてにはかの桃源郷
木村真澄(埼玉県)
- 214 甘え泣き電話の向う春闌くる
川嶋法子(東京都)
- 215 夫病めば不義理ばかりや彼岸過ぐ
大阿久雅子(東京都)
- 216 誘ひあひ三々五々と散る桜
古川正栄(千葉県)
- 217 実盛の鏡をよぎる花吹雪
安部世衣子(埼玉県)
- 218 おかわりをする人も居る甘茶かな
増島淳隆(東京都)
- 219 田蛙や農の凱歌と聴く夕
山本せつ子(鹿児島県)
- 220 八十路坂あと幾とせの花に逢う
堀木和子(大阪府)
- 221 揚雲雀地球が青く見えるかな
西口東治(大阪府)
- 222 ミサイルの射程圏なる余寒かな
濱田イサオ(福岡県)
- 223 なれそめのごとき色合ひ柿若葉
石崎ひろ美(神奈川県)
- 224 花の芽も雨に打たれて待っている
若月理依子(新潟県)
-
- 225 閑かさや風吹くごとに散る桜
井上氣海(広島県)
- 226 葉桜や草津の板揉み体験嬉
阿部幸子(宮城県)
- 227 花水木咲きたる枝に小鳥みゆ
鈴木みえ(長野県)
- 228 住み馴れし里はまほろば青き踏む
田島星景子(宮城県)
- 229 菜の花の黄色い海を泳ぎたい
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 230 ふうらこの上キラキラの瞳かな
石塚幸子(新潟県)
- 231 行き先は女が決める花の旅
竹澤茂子(大阪府)
- 232 母の日に馴染みとなるや宅配便
石川登英雄(東京都)
- 233 うまさうな薩摩切子の心太
鈴木智子(千葉県)
- 234 釣りマナー子から孫へと川渡る
田野倉訓郎(東京都)
- 235 雁風呂や百選の浜ひとり住む
下坂池峰(秋田県)
- 236 春窮の子らは名もなき草を食む
緑川禎男(埼玉県)
- 237 一升ますに昔の屋号柿若葉
増本和子(大阪府)
- 238 潔し残花余花だも飛花落花
村上克哉(東京都)
- 239 ひとひらの又ひとひらの落花かな
高瀬秀嘉(静岡県)
- 240 夏初めラテンの調べ風に乗り
油谷郷史(兵庫県)
- 241 花吹雪やさしく飾る母の髪
大久保アヤ子(東京都)
- 242 S Lの煙隠るる山桜
望月喜美子(静岡県)
- 243 特攻の碑を見下ろす桜花かな
五十嵐勝敏(新潟県)
-
- 244 鶴万羽空へ放ちて山笑ふ
若松春輝(鹿児島県)
- 245 ああ五月句集読んだよありがと
富樫和子(山形県)
- 246 旅に聞く京の寺苑の初音かな
田中恵美子(山形県)
- 247 震災を一時忘る花筵
小野正光(宮城県)
- 248 億という宇宙の齢月おぼろ
高橋まさ子(宮城県)
- 249 大きなネズミ一匹三鬼の忌
白戸麻奈(東京都)
- 250 ひとり居の生活になれて春うらら
小林紀美子(東京都)
- 251 鼻唄の小沢変哲花大根
岩村昇(神奈川県)
- 252 夜やおぼろ萎へし肢なで老いを知る
吉田未灰(群馬県)
- 253 種を蒔く虫つこ鳥つこの分もまく
安藤まこと(岩手県)
- 254 新緑の酸素吸い込む老い心
杉本敬治(愛知県)
- 255 陽春の荘厳な寺花盛り
中村和弘(愛知県)
- 256 養鯉場の鯉を眠らせ朧月
梶鴻風(北海道)
- 257 菜の花の海におぼれて人を恋う
棚橋麗末(東京都)
- 258 東大寺時空を超えた朧月
山本理香(大阪府)
- 259 階段を桜ひとひら迷いおり
木下精(大阪府)
- 260 あれこれと指図する声梅雨晴間
田野井一夫(栃木県)
- 261 葉桜や一際高き空を恋う
日下温水(東京都)
- 262 菜の花や土手生き生きと吉井川
藤田昭代(岡山県)
-
- 263 ふるさとを詠まる師の句や百千鳥
菅野本枝(東京都)
- 264 切れ目なく焚くフラッシュや卒業す
高杉杜詩花(北海道)
- 265 剪りてより青みを帯びし海芋かな
小井寒九郎(三重県)
- 266 桃色を追って列島春盛り
中山日出子(大阪府)
- 267 友と来て足湯に和む花談義
中田文子(大阪府)
- 268 山間に笈時おり竹落葉
齊藤安弘(神奈川県)
- 269 くつきりと見えぬ余生の朧月
浦橋渴雪(兵庫県)
- 270 茶畑を抜けて端午の風となり
高木ひかる(愛知県)
- 271 八重桜この爛漫へ来るな風
中澤寿美(神奈川県)
- 272 佩刀の遺影は若し青時雨
鮫島茂利(兵庫県)
- 273 うす味の宅配弁当鳥雲に
倉田淑子(千葉県)
- 274 銀輪に髪靡かせる新学生
菅井文男(新潟県)
- 275 うぐいすの初音や櫻開花の日
森俊彦(神奈川県)
- 276 鶯の自浄の声に目覚めけり
池本勇(奈良県)
- 277 この家の子等の旅立ち燕来る
高垣勝代(大阪府)
- 278 さくら貝ひろつて来ると行きしまま
本間七窪子(山形県)
- 279 藤下がり亀は重なり甲ら干す
今井節子(千葉県)
- 280 つつじ咲く道紅白の宴かな
針生清(千葉県)
- 281 花へんろ百里の道も君となら
橋本良子(埼玉県)

- 282 おめでとう順調ですか櫻咲く
山川幸子(東京都)
- 283 ここからは立入禁止蟻の列
小林七重(新潟県)
- 284 群れ咲けど一人静の一人なる
夏目満子(東京都)
- 285 菜種梅雨父百歳を指すかな
福田和子(東京都)
- 286 のら猫に言つて聞かせて小判草
大曾根育代(埼玉県)
- 287 草筆り樗櫟の儘に老の腰
関忠恕(静岡県)
- 288 夕東風の背をおされる試歩の径
駒場京子(神奈川県)
- 289 どの道をとりにても落花浴びもれる
重原昇(新潟県)
- 290 嫁ぎゆく姉を囲みて桜餅
木村美智穂(埼玉県)
- 291 花あらし別の世界へ一目散
池田岬(埼玉県)
- 292 鳥帰る今朝も名残の撒餌かな
藤井春三(埼玉県)
- 293 日の入りや目の前を飛ぶつばくらめ
小山たけし(埼玉県)
- 294 紅灯の港抜ければおぼろ月
永井俊樹(兵庫県)
- 295 日日の自問自答や竹の秋
有坂馨園(福島県)
- 296 封印を二気に解きて桜咲く
長島保子(東京都)
- 297 春近し光差す池今朝の白
坂元正憲(東京都)
- 298 初つばめ泥の重さを計りけり
橋本まこと(栃木県)
- 299 もののふと采女にかかる桜かな
有田俊一(埼玉県)
- 300 少子国ひとふで書きの路地日永
佐藤正子(福島県)

4月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いにたくさんのお返をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。



堅田 秀子様

《大賞》
84 手をなでるだけの見舞や春遅し
堅田 秀子(東京都)

・病人にとつて体をさすつたりなでたりして貰うことが癒しではないでしょうか。今日も来て下さるのを待つていらつしやいますよ。高崎登喜子(東京都)・昨年、友人が入院し、呼吸器を付け、本当に手を握るだけ(熱が出て熱い手でした)実感です。布目雅之(東京都)・作者のやさしさが具体的に表わされています。北村純一(神奈川県)・年を重ねると本当に見舞はこれだけいい。檜山と子(東京都)・思いの一杯詰った動作です。平易に表現、「春遅し」が最適の措辞。湯浅芳郎(岡山県)・私も最近兄をなくしたのでよくわかります。鈴木義雄(福島県)・しゃべらなくてもいい。心の通う手と手のぬくもりが見舞になる。齊藤安弘(神奈川県)・お互いに心が通いあう一瞬。嬉しいですね。服部八重子(東京都)・季語から病状の重さと作者の心情が見えるようです。澤昌美(長野県)・見舞う人の無念とかすかな慰め。松木建二(東京都) 他

【自句自解】

息子の友人のお母様が乳癌で二度の大手術の甲斐もなく逝かれ、その悲しみは三年を過ぎた今も消えることはありません。好物だったメロン、アイスクリームも口にできなくなつてただベッドで眼をあわすことも切なく手と足をなでては奇跡があることを願つては見舞つておりました。春をまたずにして逝かれ季節になると早過ぎたお別れが悔やまれてなりません。その時の素直な気持が句になりました。

《川柳》
45 何をしに二階に來たか降りてみる
藤井北灯(福岡県)

・このハツとするひとときは逆に豊かな人生時間かも。透明な流れよ。安部哲(新潟県)・よくあることをうまく表現してある。ムダがない。石神紅雀(鹿児島県)・今の自分と同じだから身につまされる。菊地可寿子(新潟県)・しようちゅう二階を上つたり下がつたり、降りてから考えて又上がる(笑)。濱崎祥子(鹿児島県)・私自身いつも体験しているのでよくわかります。中嶋秀次郎(埼玉県)・二階どころか、隣の部屋でうろろうろしている我身を思い浮かべて苦笑しました。磯山陽吉(東京都)・最近同じ経験を度々しているの、自分の事を詠われている様で。山岸伊久雄(東京都) 他

《俳句》
67 ふとなぞる妻の遺墨を梅二月
大谷茂(埼玉県)

・ふとなぞるとあるのは書の掛軸の字とその妻への想いがよくでています。須澤重雄(長野県)・暖かなひと日。ふと在りし日を想う優しさ、正々堂々そして少しの寂しさ。寺内侘(埼玉県)・なにげなく妻の書き残した書にふれた心の動き、

中七の「遺墨を」の「を」の使い方が上手でした。高杉杜詩花(北海道)・亡き奥様への深い愛情がしみじみと伝わってきます。きつと清らかに支え合つてこられたのでしょう。鮫島茂利(兵庫県)・奥さんは書をよくした方が書家ですかね。一緒に梅の花を愛でた日々があつたでしょう。梅の花を見ながら、ふと亡くなった奥さんが書いた書を指でなぞる様子が想像出来ませう。関忠恕(静岡県) 他

《短歌》
278 初夢は車の免許取得する九十の我れ
夢に喜ぶ 石原千江子(群馬県)

・九十にもなつて、夢とはいえ、車の免許を取得して喜ぶその元気が印象にのこりました。たのしい先輩と畏敬しました。木暮珣子(群馬県)・卒寿で運転免許の初夢我の二年後を思う。関子利明(兵庫県)・上の句と下の句のつながりがとてもよい、九十歳の初夢、明るくて前向きで読んで楽しかったです。吉澤八千代(群馬県) 他

《他にも》
6 ふんばつて過疎の地まもる老の意地
諸橋文男(新潟県)

34 いい方へ取れば明日も出るやる気
潮田春雄(千葉県)

53 胎動てふ確かなるもの桃の花
木村美智穂(埼玉県)

64 セシウムも湯の香も混じる雪解川
小野正光(宮城県)

262 来信の宛名は墨書「英」の文字「笑」と見えてほのぼのたのし
井川英子(大阪府)

275 飲み唄ひ踊りスナック心地よし生き
る喜びぶつと湧く
小暮昭司(群馬県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q:あなたにとっての記念日は?

紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できません。ことお詫び申し上げます。



★結婚記念日

・忘れてしまい妻にいじめられましたので、忘れないように気をつけています。

橋本世紀男(東京都)

・十年前孫の誕生日と重なり、忘れられませんか。

布目雅之(東京都)

・結婚記念日と母の忌日が同日。

蛭子雷児(神奈川県)

・披露宴で灯したロウソクを今年も灯しました。燃え終るまで百年くらいかかりそう。

桑原謙一(群馬県)

・「結婚記念日」「還暦」の日、第二の人生の始まり、名前も変えました。

安部世衣子(埼玉県)

・今年も記念に植えた桜が大樹となって毎年咲いております。

中村和弘(愛知県)

・夫亡き後も必ず花を飾って思い出します。

棚橋麗未(東京都)

・ダイヤ婚式も過ぎて結婚六十六年になります。感謝!! 澤雅子(大阪府)

・金婚式は過ぎ次の数少ない○○婚を楽しみにしています。

羽根田明(神奈川県)他

★恋の記念日

・大失恋の日。老いて覚めても忘れませんぞ!

松田重信(埼玉県)

・亡夫に初めてラブレターをもらった日、十代でした。

増本和子(大阪府)

・五十年前に恋人が去った日。偉くなつて金持になつて有名になつてやるゾーと誓つたはず。あーあ。

松尾健二(千葉県)他

★俳句を始めた日

・父が他界した翌年はじめて俳句にであいました。父が入会していた俳句会に私自身も入れてもらった時が私の記念日です。

井田由利子(宮城県)

・私は来年俳句人生二十年目を迎えます。

稲垣恵子(埼玉県)

・初めて句会に行つて句会デビューした日。

石塚幸子(新潟県)

・俳句十周年 よくも飽きずに続いていると自分をほめている。

佐藤正子(福島県)他

★賞を頂いた日

・鶴岡市で行われた川柳大会で天賞を受けました。それを記念して出版を計画中です。

工藤昌見(山形県)



・春の叙勲をいただいた時

佐野澄江(山梨県)

・NHK歌壇で自分の作品がテレビで放映された。

黒澤正行(福島県)

・数年前ある出版社の全国俳句大賞の準賞を受賞した日。奇しくも私の誕生日でした。

高崎登喜子(東京都)

・平成十七年芭蕉祭献詠俳句特選となつた日

山本吉夫(三重県)

・短歌結社「サキクサ」の結社賞「太田善磨賞」を受賞した。「会津八一の歌」という研究論文で。

萬濃その子(神奈川県)

・院展日本画初入選、安田鞞彦先生(文化勲章受賞者)から祝電をいただいたこと(私は現在96才7ヶ月、初入選は……)

関忠恕(静岡県)他

★句集出版記念日

・二年前あの大地震のあつた三月に喜寿を迎え、自分史のつもりで句集を出したことです。

高橋まさ子(宮城県)

・第一歌集「蒼き流れ」を出版させてもらった日です。

後藤美佐子(長崎県)

・第一句集「飛白」刊行十四周年、第二句集「月の霜」刊行四周年の年です。

大谷茂(埼玉県)他

★入社記念日

・初任給・一社会人の自覚を抱き出席した入社式

加用章勝(千葉県)

・最初に給料をもらった日です。明細は今も大切に持っています。

濱田イサオ(福岡県)

★転職・退職・第二の人生

・退職して第二の人生をスタートした日。今までになく楽しいことがたくさんあつた。

長峰正晴(千葉県)

・職務を全うして43年間勤めた職場を退職した日。

諸橋文男(新潟県)

・創立十周年の年に入社してあれから四十年、今年の誕生日にはいよいよ自由人になります。

吉村充治(埼玉県)

・定年後10年目に今までのサークル作品の個展をやつた事位。個展は水墨画、油絵、水彩画、俳句、ハガキ絵の合同作品集です。

松前邦廣(千葉県)

・定年後十周年を迎えます。自由人が板に付きました。

井上静夫(栃木)他

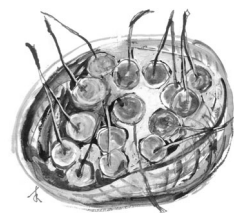
★試験に合格した日

・一生を左右する県の上級職試験に合格した日

土谷敏雄(秋田県)

・免許を取つた日で主人と会えるようになった日です。

濱田花香(新潟県)他



A Q U E S T I O N N A I R E



★自分の誕生日

- ・風薫る五月某日。
- ・亡き両親に感謝のお墓まいりをします。
- ・私は今年九十才卒寿になります。ささやかな記念の会を考えています。

居原田連星(大阪府)
岩崎令子(大阪府)
吉田未灰(群馬県)

★家族の誕生日

- ・私の記念日も御社と同様十月十日(誕生日)です。頑張ってください。
- ・健康な体を授けてくれた両親に感謝、特に母に。

三好あきを(埼玉県)
山本直子(大阪府)他

★家を持った日

- ・子どもの誕生日です。男の子二人今はもう大人ですが生れた日の事は忘れません。
- ・初孫の誕生日。世界一のプレゼントを頂きました。増島淳隆(東京都)他

関根千恵(埼玉県)
鈴木智子(千葉県)
齊藤安弘(神奈川県)
青木涼子(埼玉県)

- ・前の一月十五日成人の日、小雪舞う日にこの家に住むようになり成人式の日がかわつても記念日です。

★引越

- ・東京に永住することになった記念すべき出来事があった日、55年前のある日。

★入学

- ・小学校入学の日です。
- ・大学入学時、ひとり暮しの始まりです。

★開業・開校

- ・文化服装学院を開校した日(洋裁・編物その関連の仕事を六十才の定年迄つづけました)
- ・六十三才で独立、会社設立記念日、会社の車全部一六六一です。

★終戦記念日

- ・今年開店35周年です。
- ・海軍の特攻兵器生産の仕事をして居り、それでどれだけの若い命が失われたかは知る由も有りませんが命有る限り忘れてはならない事と思いつけて居ります。
- ・平和の有難さが身に沁みます。

辻升人(東京都)
加藤かよ(新潟県)他
鈴木みえ(長野県)
志願兵として、陸軍航空通信学校に入校一年を経ずして原爆被災地の広島を貨車で眺めながら復員した。

井口桂山(新潟県)



- ・益の十五日涙を流し玉音を聞いたあの日を忘れることはありません。
- ・現役召集日。定年退職日。

★命日

- ・夫の命日、この日は仕事を休み夫の好きだったパチンコをします。
- ・自分の誕生日を忘れても両親の命日だけは忘れません。

大岩歌子(岡山県)
宇田川正雄(埼玉県)他
細川光子(栃木県)
相馬竹浪(新潟県)
星一子(神奈川県)
母を看取ったのは忘れられません。

★九死に一生

- ・母の忌日、娘、息子の誕生日、親から子へ、孫へと続く大切な日。
- ・事故から生き返った日。交通事故で意識不明(約一週間)より目覚めた日。
- ・交通事故から九死に一生を得た日

紺谷睡花(東京都)他
田中豊恵(新潟県)
新井賢(埼玉県)他

★病氣・手術

- ・乳癌手術記念日(命の大切さを感じみじみふりかえる日です)。
- ・胃ガンによる胃全摘の日

★記念日沢山!

- ・短歌60年、俳句20年、町案内人と語り部26年目。薬局は103年目、自分や子や孫の誕生記念日等大切にしております。
- ・娘の誕生と花嫁姿の結婚式と四ヶ月で亡くなった長男と沢山ありしほり頂きました。堀田寿美子(北海道)他

★記念日が重なって...

- ・過去結婚日 子供達の誕生日であり、今は父母の、夫の命日になってしまいました。記念日一つで人生を感じます。
- ・奥那於子(大阪府)他

★特別な記念日は無いが...

- ・毎日が記念日と言ったら恰好つけ過ぎでしょうか。有島和子(東京都) 齢八十歳 毎日が記念日だと思つて生きてます。吉澤八千代(群馬県) 八十路何苦礎・82歳 喜怒哀楽・毎日が生きゆく記念日とでも...
- ・毎日が記念日。元氣ですか皆さん!?

★その他

- ・「3・11」です。篠原三郎(静岡県) 夢叶い、農村に移住した日です。
- ・音喜多千津子(埼玉県)



・ある発表会にて500人もの前に司会進行を努めさせていただきました。人生最初で最後の記念日です。

増田公代(東京都)
3月27日と11月27日、それは？

福岡悟(東京都)

・喜怒哀楽がはじめて届き、それ以来一回もかかさず俳句川柳を出して、私にとって喜怒哀楽は私の記念日です。

大久保アヤ子(東京都)

・タイガース優勝記念日 待ちどおしい。

奥田音野(香川県)

・五月一日(メーデー)でしょうか。「万国の労働者団結せよ」と更新したのが昨日のように思い出される。

忍正志(兵庫県)

・喜怒哀楽書房に仲間入りさせていただき五周年の記念日。

五十嵐勝敏(新潟県)

・作詞家になった記念日かなあ…

堀井酔人(茨城県)

・三十代半ば澁谷の道玄坂でホテルへいったのが一生の記念日

梅澤鳳舞(埼玉県)

・山本有三の言葉に出会ったのが私の生の記念日です。

今井節子(千葉県)

・四月一日は子供のころから新しい何かが始まる新鮮な気持ちになります。

若月理依子(新潟県)

・本職画業の記念で画家志望上京四月、今年六十周年記念日。

須澤重雄(長野県)

・七十才を目前に水泳の「クロール」が「五十メートル」泳げる様になった日です。

山川幸子(東京都)

・初めて海外へ一人旅できた日。北アルプス登山完了した日

福原喜恵子(群馬県)

・赤鳥会創立50周年 (一九六三年二月十七日発会)

松嶋光秋(東京都)

・「全世界にありがとう大発信・大収集」を使命・天命としている私にとって「サンキューの「三月九日」。残念なのは「ありがとう」の適当な月が見つからないこと。「?月十日」ではね!

清水英雄(東京都)

・曹洞宗の道之禅師様の入滅された九月二十九日です。

阿部徳夫(宮城県)

・インターハイ全国大会優勝の日。

森俊彦(神奈川県)

・八十才になったら(平成二十七年)記念展(書道・仏画・俳句)をと思い進行中です。

神作洗江(埼玉県)

・夫の喜寿記念旅行 娘二人と幸せな旅でした。

森ふく(千葉県)

・油絵をはじめて四年

木村徳光(埼玉県)他



(挿絵 須澤重雄)

新潟ぶらり

★新潟市立亀田図書館 特別コレクション室

亀田は「俳句の里」であるらしい。昭和の初め中田瑞穂(俳号・みづほ)が新潟医科大学に赴任したことをきっかけに、ここで俳句が盛り上がったようだ。みづほ主宰の俳誌「まはぎ」の創刊・発行、みづほとともに「新潟の三羽鳥」と虚子に称された浜口今夜と高野素十による「まはぎ」編集と俳句の指導——の舞台になっている。句会も盛んだったようだ。

亀田図書館の特別コレクション室には、「まはぎ」を中心に新潟の俳句関係の資料が収集されている。さすが昨年開いたばかり、モダンなつくりだ。新しい本棚に囲まれながら、手あかのついた古い冊子「まはぎ」を手にとっていった。発刊から、みづほの逝去によってむかえる終刊までが(途中の号にみづほの訃報もはさまれていた)、そのときの動きとして迫ってくる。きれいにまとめてある本にはない、身近さ、人間味、それぞれの人間関係がより濃く感じられることに驚いた。



住所 / 〒950-0144
江南区茅野山 3-1-14
(江南区文化会館1・2階)
電話 / 025-382-4696

いわれていた。環境は苛酷といつていい。みづほも「田もこちらの田とことなら、一年中満々と水を湛へ、ところによつては田植も稲刈も舟でなければ出来ない程の深田があり」*1と環境がよくないことを示しつつ「しかしそこには数人の百姓と数人の傘屋さんと二人の学校の先生とが実に熱心にたのしく俳句をつくり吾々を歓迎して呉れますので、夏となく冬となく、どんなに吹雪いてもどんなに暑くても閑さへあれば、又亀田に行かうといふ事になり」*1と語っている。

師として心から信頼し、かつ温かく迎えてくれる存在。みづほの記をさらに追うと、「こへ来さへすればどんな時でも必ず一句や二句は、一寸い、などと思ふ句が得られる」「向ふから俳句になつてとびこんで来てるかと思ふ程」*1とまであった。なぜ亀田、のこたえがここにあった。

みづほに愛された亀田は、昭和の終わり、司馬遼太郎に「この一望はるかな稲作地帯が、かつては農地とは言いな、地図にない湖などといわれて絶えず湛水して葦がはえ、さざなみの立つ地帯だったという」ことは、ちよつと想像しがたい*2と言わしめる、稲穂が波打つ豊かな地となった。(菅真理子)

しかし、なぜ亀田なのだろう。新潟医科大学から近くはない。しかも、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれたこの地域は当時「地図にない湖」と

*1「子規忌俳句講演の要旨」(昭和十五年十一月)「中田瑞穂選集 中田瑞穂句集・俳話」所収
*2「潟のみち」『街道をゆく九』所収

●お客様の『リレーエッセイ』

左利き

河野静子

(埼玉県・新座市)

私、左利きです。生れつきなんです。それで今まで面白く過したような気がしています。今は左利きも市民権を得ていますが、昭和七年生れの私は、小学校に上るまで右手で字を書けるようにと通知があり、私はいけない子かしらと思ひ込み、どうしようと立ち止りました。

ランドセルも買ってもらったのに、学校へ行けなくなるのかしらと胸をいためました。

母がつきつきりで、教えてくれた、これがうれしかった。新聞紙をいっぱい広げて、王様クレヨンで絵を描くようにたのしく、大きく書いた、カタカナです。「モ」はすぐ「子」になり、何回もトレーニング、子供の頃はこのような練習は得意ではなからうか。四年生頃かしら、教育勅語の「朕惟フニ我カ皇祖皇宗・」。暗記していました。

右手のトレーニングの効用は、今もあみもの洋裁などの手仕事に重宝しています。両方便える。縫うとき糸を長くとりとよりが戻ったりして困ることもあるが、そうなったらそれなりの工夫もたのしい。

左の鎖骨を折った。家で足がふらつき、ドタン、大木が倒れたようなイメージが重なった。それはそれは痛い、すぐ外科に。やっぱ折れていた。「シヨック」。「お母さんごめんさい」口をつけて出た。丈夫に育ててくれた母に申し訳ない。落ち込みようは只事では

なかった。

そうだ、こんな時は空元気でも勢いをつけなければ！ いつか応募しようと思っていた、東京新聞の「あけくれ」に投稿。きつい体を起こして、装具で両腕をうしろ手にガッチリ止められて、押さえられながら書いた。

投稿三日目、「あけくれ」に出ていた。ヨシ頑張らなくちゃ、三週間は装具のまんま。

それはこうなんです。私は生れつきいわゆる左利きです。人は、あら左利きは器用っていうわよ、ときまつてオウムがえし、知ったふりして、言う。

母から箸は右、字は右手で書くようにしつけられました。八人兄弟の真ん中の子の私は母とのひとときはたのしかったです。

そのほかは万事左手で賄っていました。私はオール左利き。部分だけの人もいるが。

骨折してから左が使えないのに動こうとすると、さっと左手が出そうになり、「痛い」と声が出てしまいます。習慣でしょうか。そうか、左手は疲れているんだ。「右手に選交代だよ」というささやきが聞こえてくるようでした。

鎖骨折れ利き腕ゆえに春休み

そんな句が降ってきました。

人間の体はよく出来ているのか、折れても再生しようとする。蜥蜴の尻尾みたいですね。



滋味しみじみ

西 瓜



井川英子様 (大阪市・住吉区)

買い物に出ようとしていたら夕立になった。旋風を伴ってやってきた大雷雨はむんむんと堪え難かった熱気を一掃した。

が、「西瓜、買って置けよ」と言い置いて出かけた夫の言葉が気にかかった。雷鳴の遠ざかったとき夜色は濃く、やがて夫は帰って来た。

「西瓜」「西瓜」「西瓜はどうした」。残忍なまでの自己主張に思えた。「ごめん」とあやまり、事情を説明していた心が、その時、変わった。

チャンス到来。平生の生活であらわにされてない、あなたを拝見させて頂きます。あなたの言葉が本心からなのか、それとも一時の怒りからなのかもね。

新しい発見はなかった。それで私は思ったものだ。彼は真実疲れており、私にぶっつけている激しさは、多分誰かにぶっつけたくてできなかったそれにすぎない。好物の西瓜で癒したい何かがあるのだろう、と。

30年も前のノートにこんな事が書いてあった。あの頃も西瓜は切り売りされていたと思うが、半個を買って冷蔵庫の棚にそっと差し入れるときは、夜の家族の団欒を思っ心弾んだものだった。

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

第4回良寛・国上寺全国俳句大会

新潟県燕市にある国上寺は、良寛が47歳から約13年間の最盛期を過ごした草庵「五合庵」のあるお寺です。この国上寺にて第4回良寛・国上寺全国俳句大会が開催されます。事前に作品を応募のうえ、秋の実りを迎える時期に、良寛の心に触れに越後平野まで足をのばしてみませんか。

■作品募集 当季雑詠 2句1組 (未発表作品) 1000円
締切/平成25年7月16日(火)

■俳句大会/平成25年9月23日(月・祭) 午前10時受付開始
大会投句/囁目2句(選者 中原道夫)

【お問い合わせ】国上寺・五合庵

〒959-0136 新潟県燕市国上1407 ☎ 0256-97-3758

地元紙にお客様が続々!!

当社で本のお手伝いをさせていただいた新潟のお客さまの記事が、地元「新潟日報」に2ヶ月連続で掲載されました。本づくりの応援団として、これからもお客さまをバックアップさせていただきます! ▲絵本「ね、なかないで」の横山一枝様(左)と詩集「はなごころ」の加藤かよ様(右)



ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいている当社のオリジナル

ポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は夏バージョンを同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**

「ご縁ブック2013」「2014年手帖」

今号で「ご縁ブック2013」「2014年手帖」のご案内を予定しておりましたが、来月に掲載のうえ、申込書等も次回8月号に同封させていただきます。申し訳ございません。

スタッフの一言

Q. あなたにとっての記念日は? ※夏らしいものといってカエルの縫ぐるみやお花を持って撮影!



木戸 敦子
結婚式をあげたら結婚したものと思いき、すぐに妊娠し、そうか入籍しなきゃいけないのか!とつわりの状態で市役所へ。「入籍をしないと認められないと知ったから7月20日は入籍記念日」



古川 久美子
たっ、誕生日……? 某青い猫型ロボットとおんなじ。そして、某バンドに自分の誕生日がタイトルに入った曲もある。歌詞は、何か暗かったような気憶が……。



菅 真理子
誕生日。高校生のときに見たドラマで、主人公の女性(未婚)が「学校を卒業すると、イベントは結婚に付随するものしかないのよ!」と言っていたのを最近とみに思い出します。でも、でも、誕生日が、あるもんね。



山田 千秋
お母さんになった日。息子達の誕生日にはこんな風になる子を私はよく自分の体の中で製造して、産んだわあ〜と改めて感心してしまいます。



木伏 美美恵
結婚記念日に、長男が生まれました。その為、結婚記念日は息子の誕生日がメインとなり結婚記念日のお祝いは無し。でも結婚何年目か忘れなくて良いです。ちなみに今年、木婚式らしい。



上村 真智子
記念日などというのは僕万智が広めたもので「しゃらくせー、こっ恥ずかしくてやってられねーぜ」って事で我が家はお祝いしない。子供の誕生日もケーキ食べるだけでそそくさと終わる。



金子 ゆり子
最初の子ども(長男)を27歳の時に出産、あの時の感動は忘れられません。涙が自然と流れてきました。記念日というか、忘れられない日です。



石山 由希子
やっぱり結婚記念日、出産記念日などです。個人的に出産が一番大きい記念日ですが、先日初めて網戸の張り替えを自分でやってみました。網戸記念日は6月2日。



吉田 瞳
父親の誕生日でもある3月5日結婚記念日です。うちはゴム婚式らしい。弾力のあるせいかつをですって。今年はスノーも夏タイヤも変えたしバッチリですかねー!



1歳10ヶ月になりました。女の子らしくなったでしょ!!♡

●プロフィール

1983年札幌市生まれ。立命館大学法学部卒。2008年歌誌「かばん」入会。2009年第55回角川短歌賞および第27回現代短歌評論賞受賞。2012年第一歌集『さよならバグ・チルドレン』を刊行（ふらんす堂）。



詠み人の『リレーエッセイ』

抒情は「観察」から生まれる 山田 航

小坂俊史・重野なおき共著の『ふたりごと自由帳』（芳文社）という漫画がある。著者二人は4コマ漫画家。それも30代半ばの、最も脂の乗り切った世代の漫画家である。ともに起承転結を順守した、保守本流ともいえる正統派ギャグ4コマ作家とみなされることが多い。実際、ギャグの切れの良さ、技術の高さは4コマ漫画界全体を見渡しても群を抜いているレベルである。前半のコマに何気なく伏線を張ってオチへとつなげるなんてこともあり、笑いのためになりに洗練されたロジックを駆使している。

『ふたりごと自由帳』はギャグ4コマのトップランナー二人が同人誌で発表し続けていた、ギャグではない（あとがきによれば「しみったれた」）漫画を集めたものである。ともに4コマ向けに特化されているといっているシンプルな絵柄ながら、ショートストーリーにも果敢に取り組んでいる。そしてどの作品もとにかく抒情的で、とても切なく、かなり胸を打つ。とりわけ小坂作品にその傾向は顕著だろう。登場するのはたいていが、思い通りにいかない日々の中であがいている人々だ。彼らは目の前にある生活をしっかりと見つめ、現実を見据えながらも、その現実から抜け出そうと必死になっている。

たとえば小坂俊史『女子旅に出る#1』に登場する女の子。生まれ育った街から出たことがない彼女は、「退屈な思い出がたくさん欲しいから」という理由で、旅先の街で書店やファストフードなどを周り「普通の生活」を追体験して帰ってくる。そして必ず、どこの書店でも売っている中勘助

惜しむべく、今回が最後となる山田さまのエッセイ。抒情の源は「観察」。流れ過ぎるような日常、意識してじっくりものを観る時間を持ちたいと感じます。次回からは若い女性歌人の登場です！

の『銀の匙』を購入する。その冊数すでに29冊目。冷静に考えればまるで奇行だけど、こんな女の子どこかにいても不思議ではない気がする。このリアリティはひとえに、生活に對するきわめてトリビアルな着眼点から発生している。

ギャグ漫画家としての二人の昔からのファンだった私は、この『ふたりごと自由帳』が出たとき、笑いの一切ない作風に全く違和感を覚えなかった。むしろ、この二人らしい作品だとすら感じた。なぜなら、ギャグ漫画で笑いを作り出しているときと全く同じ方法論から話を構築しているから。社会の構造をしっかりと見つめ、人間関係の機微を徹底的に観察し、そのうえで構造を脱臼させる。その結果が、ときには笑いになり、ときには切なさになるといっただけ。「抒情」とは「情」の字の通り、本来あらゆる感情が内包されているものだろう。その中には笑いだってあつていい。立派な感情の一つなのだから。

どんな感情だってその発生源は基本的に同一で、それはすなわち「観察」と「発見」。対象を徹底的に見つめる行為なくして、人の心を動かすことはできない。抒情詩である短歌を作っている身でありながら、4コマ漫画家に教えられてしまった。笑いも切なさも、根っこは同じなのだということ。いや、これくらい才能のある作家は、人間というものの本質をつかんでいるので、ジャンルなんて関係ないのかもしれない。

履歴書の学歴欄を埋めていく春の出来事ばかり
重ねて
五島 論

2013. 6. vol.68 (2013年6月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
喜怒哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

編集後記

スーパーに万国旗のように貼られた「父の日」の似顔絵。一歳のギザギザ模様の地球外生物、小学生が描いた眼鏡の律儀そうなパパ、中学生による本格的な煙草をくゆらす親父。その旗を見上げながら立ち尽す。子どもとして親として、その当事者として確かにあり、確実に過ぎ去った季節。家路を急ぐ必要もなくなり見続けられる今。この気持ちを切り取ったらどんな言葉になるだろう。「歌はうれしい、悲しいという気持ちは決して強調しない」とあった(P3参照)。この気持ちを抑えたら、少しは自分がまともな作家になれるかな。やせ我慢は女の美学、とうそぶいてみる。パパもそれ以外の人もファイト!(木戸敦子)